

第1回金山町廃校利活用検討委員会 議事録

- 日 時 令和2年9月7日(月)
19:00~21:00
- 場 所 金山町農村環境改善センター

【委員長選出】

斉藤徹史委員長

ここでの議論は将来のまちづくりに非常に重要なテーマとなる。皆様の暮らしやすさが向上していくような委員会にしていきたい。

【検討委員会の進め方】

事務局庄司紀一政策財政監より資料P2~6について説明。地域ごとの事情が異なるため、地域の意向を十分に考慮して検討していく必要があると考えている。

【協 議】 斉藤徹史委員長座長

正野直弥副委員長

公募した理由について、町民の意見を拾ってこの場で言えないかなと思ひ応募した。この場で話し合われたことを周りの町民へ広げ、さらに意見を拾っていきたい。

菅圭一委員

勉強するつもりで参加させてもらった。将来のまちづくりにとって非常に重要な事柄だと思うので、その一助となれるようにしたい。

栗田伸一委員

中田小学校での経験を共有できたら良い。中田小学校が廃校になった際、年代別にアンケートをとった。7~8割は町の協力がないと自分達だけでは何もできないという意見。残りは何もできないという意見だった。大きな施設であることから、町の支援は相当必要だと感じている。5年間、色々取り組んでみたが、物事を変えられる程のお金や力がなく、結局、中田では地域の方針を決めることができなかった。現在NPOを解散して、地域全体で進めていこうとしている。そういった意味では、廃校利用を進めるうえで全世代が意見を出し合い、一致団結しないと何もできないと実感した。町規模でやっていかないといけない問題だ。

半田季三子委員

何も言わずに廃校になったら後悔すると思って応募した。ずっと子ども達と関わってきた中で、少子化などが進んでいる今、放課後の過ごし方が気になっている。森の子ども図書も、放課後の過ごし方として使ってもらっているが、狭くなってきて本の置き場所がなくなってきたりと、環境面で様々な問題が出てきている。そういったことから、ぜひ明安小学校を安心して子ども達が放課後を過ごせる場所にしたいと考えている。少年歌舞伎や番楽などの練習もできるカルチャーセンターや改築の問題が出ている中央公民館も兼ね備えた総合施設として活用できないか提案したい。

阿部利広委員

廃校になる施設について、関係して仕事もしてきているので何か力になればと応募した。学校は地域文化の中心。そういったところを大切にしたい。

今田裕蒲沢区長

現在、旧田茂沢分校は解体している。平成13年の廃校後、みちくさ分校として活動してきた。他の施設についても新たな気持ちで勉強したい。

沼澤道也町議会総務文教常任委員長

昨年議会で文科省を訪問した。全国で毎年700校以上が廃校するため、対策を進めているということだった。特に記憶に残っているのが、「廃校利用は地域振興のひとつとして捉えて、検討していかなければならない」ということだ。個人的には、農村体験ができる「四季の学校谷口」を20年やってきた。メンバーが志一つだったこと、お金が回ったことなどが成功理由だと考える。網羅組織でやってもなかなか難しい。その地域の人に限らず、やれる人、やりたい人がやるのが一番良い。有屋小学校も明安小学校も施設が大きすぎるので、町内の人間ができるレベルのものではないと思う。「内」と「外」の考え方が重要。内は地域でやっていくという方法、外は町外の資本を活用する方法だ。2つの視点で進めていくべき。

中村忠行町議会総務文教常任副委員長

廃校利活用については、議会でもたびたび議論している。地域のコミュニティセンターの意味合いは大きいものがある。費用に対して便益がどれだけあるのか。中長期のプランを立てるべき。地域の思いもあるが、一つの選択肢として「廃止」もあると考える。

栗田保則町議会総務文教常任委員

みんなの廃校プロジェクトでは有利な公募もあるようだ。皆さんの意見を聞きながら、進めていきたい。

星川智子町議会総務文教常任委員

廃校利用の話はずいぶん前から話題に上がっている。町民の興味は、明安小学校だと感じている。どう使っていくのかという話をよく聞く。町として片手間ではできない大きな問題だと思う。金山は災害が少ないので、全国で被災した方々にも廃校利用について発信できればと思う。そういったことができる責任ある会が組織できればと思う。

柴田清正町議会総務文教常任委員

大きな論点は有屋小学校、明安小学校。何もしなければ動物の住処になるだろう。統合と同時に廃校利用は検討するべきだ。今から使いたい方がいるという話も聞く。ただ経済が回らないことには、やっていけないという本音もある。

高橋久男板橋区長

台風等の避難時に学校がよく使われる。学校は学びの場だけでなく、地域のコミュニティスペースだ。私もずっと思ってきた。しかし、財政的にしっかりした基盤があれば、そういった場所が確保できると思っている。旧朴山分校は木造で正直ボロボロだ。お金があれば、直して使いたい気持ちがある。財政負担になるならば、取り壊してもよいのではないか。

柿崎公一朴山区長

ここ5年、町から100万円程の補助金をもらって分校を管理してきた。もうもらえないのであれば、解体した方がよいというのが地域としての意見だ。

栗田仁下中田区長

最上地域の役場に電話して、廃校利用について聞いたことがあった。真室川や舟形で色々なことをしていることが分かった。中田小学校については、色々なことを試みたが、最終的に町に返した。私としては、買ってくれる人、やってくれる人がいたらぜひお願いしたいと思っている。町でできないことは、やはり自分達でもできない。

佐藤一男安沢区長

明安小学校はまだ築18年。まだ新しい。現在、統合と同時に閉校式の準備をしているが、急な統合の話にまだ気持ちの整理が追い付かない保護者がいる。十分に気を付けながら廃校利用を検討しなければならない。統合がストップしてしまえば本末転倒。実際的には、地域ですべてを管理していくのは間違いなく難しい。あとは、図書館機能をもった中央公民館施設を移転してはどうかという案がある。介護施設として使えないかという意見も地域ではある。

正野賢一下野明区長

地域では相当大きな関心事だ。まだ新しくとても取り壊すような状態ではない。地域の文化の中心であり、何もしないで朽ち果てていくのは見てられない。地域としての案がある。バリアフリーなので、介護施設やケアハウスに改修できないか。それから民間企業に買ってもらえないか、中央公民館を移転できないかなどだ。地域では維持管理できる規模ではないため、町で管理してもらって、グラウンドや体育館、教室を地域で使えるような形にしてもらえるとありがたい。

矢口一寿柳原区長

有屋小学校も地域の拠点として機能してきた。孫娘が学年一人で入学した時から、このような検討をするべきと考えてきた。小規模校の方が学習環境がよいとはいえ、延命措置にも無理があっただろう。中田小学校の話もあったように、地域での維持も難しいように感じる。やはり施設が大きすぎるので、あのままでは無理。町からの支援が必要だ。民間企業の参入もマッチングは簡単なものではないだろう。悲観的な話ばかりだが、この検討会を通して有益な議論ができればよい。

矢口卯之助下向区長

有屋小学校、明安小学校も長い歴史がある。強い思い入れもあるので、体育館など一部だけでも残せないかと考える。

斉藤徹史委員長

廃校を活用して新しい事業をするとなると受け皿が必要だ。中田小学校はどうだったか。

栗田伸一委員

お金がかかるし人も必要だと考えると、何もできなくなるのでまず動いてみた。その結果、受け皿までにはいかなかったという点は反省している。ただ、動くことによって、色々な繋がりや情報を得ることができた。今の自分にはなくても、数年で身につくスキルがあると実感している。そういった意識のある方々が集まれば、受け皿になりうるという感触はある。

斉藤徹史委員長

20～30代の若い世代をどのように工夫すると取り込めるか。

栗田伸一委員

単純に意見を聞くとよいと思う。聞いてあげるだけで仲間になってくれる。話を聞いて一緒に活動していくと、どんどん意見が出てくる。

斉藤徹史委員長

利活用するうえで、建築の観点から注意する点はあるか。

阿部利広委員

学校は意外と建築基準法的には甘い作りになっている。用途変更をするとき気を付けなければならない。安全面からすると、耐震性や防火性などは十分に担保できていると思う。木造については老朽度試験を受けて、判断する必要があるし、そこまでしなくても除去という選択肢もあるだろう。私が耐震診断を手掛けた有屋小学校は十分体力がある。

斉藤徹史委員長

旧朴山分校について、補助金をもらってどんな活動をしていたか。

柿崎公一朴山区長

草刈り、掃除、雪囲いなどの施設管理全般だ。草刈りは年4回くらい。結構大変だったが、補助金をもらえるのが大きかった。補助がないのであれば、もうどうしようもない。思い入れは地域みんなが持っているが、運営できるかは別。解体した方がよい。

高橋久男板橋区長

西郷地域では、フリーマーケットを行ってきた。夏休みには体験学習もやってきた。そういった活動する際も危険箇所には近づかないようにしていた。増築したところだけ残してはどうかということも少しは考えているが財政が先。町とも協議しているところだが、お金のことを考えれば、取り壊したほうがよいだろう。

斉藤徹史委員長

「四季の学校谷口」が成功した理由は。

沼澤道也町議会総務文教常任委員

同じ志を持つものが集まったことと、がっこそばでお金を回せたこと。この2点に尽きるだろう。地域で運営する場合は、区長や地区役員だけではうまくいくように思えない。現時点では半田さんの意見が興味深い。学童的な側面に付け加え、日中は元気な高齢者が集まれる学校、夕方からは放課後クラブ、夜は歌舞伎などの練習ができるような一日を通して使える多世代のコミュニティセンターはよいかもしれない。

斉藤徹史委員長

地域として廃校の利活用を検討することについて負担があるか。

矢口卯之助下向区長

実際の利活用はなかなか難しいと思うが、有屋小学校は地域ぐるみの活動が多いため、そういった話し合いはできる。

斉藤徹史委員長

地域で廃校を活用することには負担を感じるか。

矢口一寿柳原区長

負担はある。一例を出すと、県で整備した風の丘公園があるが、整備作業も人もいなくなって大変になってきている。今ならまだやれるかもしれないが、10～20年後のことを考えると負担感を感じるだろう。

斉藤徹史委員長

明安地域はどうか。

正野賢一下野明区長

正直自分達の公民館を維持していくだけでも難しいと思っている。学校については、町の補助金をもらっても困難だ。そんな規模の施設ではない。

佐藤一男安沢区長

地域で指定管理を受けている明安地域多目的集会施設についても、今後どうしていくかを検討しており過渡期にある。小学校も、というのは困難だろう。

斉藤徹史委員長

中田小学校については。

栗田仁下中田区長

やはりお金が入ってこないのが問題だ。中田地域には100人もおらず、人口的にも厳しい。使いたい人に使ってもらうのが一番だと考える。

正野直弥副委員長

できればコミュニティとして残したいが負担感があるという意見が多かったと思う。町としては財政が厳しいことは承知しているが、どこまで支援ができるのかで方向性が変わってくると思う。町でできないのであれば、外の資本を入れることも検討するだろう。現在の財政状況について、再度説明願いたい。

庄司紀一政策財政監

現在の財政状況は厳しい。今後の地方交付税の動向やコロナ禍における国からの支援が見通せない中、町としても利用が続く学校施設や診療所の運営の方が、優先度が高い。廃校にこれまで同様に支援することは難しいと考える。公共施設のあり方について慎重に検討していかないと町の財政は危機的状況になる。

栗田伸一委員

今日の話をも自分の子どもに言えるかと考えると相当辛い。娘たちはこれから何十年も中田で生きていこうとしている。自分は中田で生きていく選択肢を与えようとしている。そこで地域住民が耐えられないという言葉に娘に投げかけるつもりはない。常に「夢と希望を持って」と話している。もちろん現実的な話をするのも大切だが、どうやったら夢と希望をもってお金を稼いで生きていけるかという話もしたい。今、総合型スポーツクラブを町から手放して民営化しようという構想がある。実現すれば、自主財源で身の丈の中で、今日話題に上がった様々な問題に対応できるかもしれない。この中心に自分になろうという考えもある。

菅圭一委員

各地域の学校の必要性については理解している。維持管理が難しいのは分かるが、景観施策に力を入れる当町にとって、特に木造建築の旧朴山分校は残すべきだと考える。

半田季三子委員

統合準備委員会にも入っているが、統合後の子ども達がどのように放課後を過ごすか話題になっている。ある程度安全性が確保されて、自由に活動できるところがよいなあと考えると、明安小学校は魅力的な場所。中央公民館の問題も解決する。支援センターも併設すれば、子どものことについて見たり聞いたりできる場所になる。中心部から遠くはなるが、慣れてしまえば大丈夫だろう。

柴田清正町議会総務文教常任委員

ただ使うということは誰にでもできる。使いたいことは使いたいがお金がないということが課題だ。一方で、全国にはうまく活用しているところがある。国の制度もある。少しでも元気になるような方策を検討したい。

斉藤徹史委員長

維持管理を放棄することはできないが、すぐに潰してよいということではない。まちづくりの観点から検討されたい。次回は12月を予定しているが、必要な資料などはないか。
(資料「公共施設マネジメント」について説明)。

沼澤道也町議会総務文教常任委員長

廃校になる施設について、ホームページ等で情報発信してほしい。町外の民間企業などからのリアクションがあれば、共有しながら検討していきたい。行政の視点から防災上の施設としての必要性をまとめてほしい。次回開催時にはできるだけ具体的な話ができるように。

庄司紀一政策財政監

情報発信については、廃校していない学校については難しいと考える。すでに廃校となっている中田小学校は早速対応したい。みんなの廃校プロジェクトに掲載したい。防災施設については、基本的には地区公民館が避難所で、大規模災害時の避難所として学校施設を位置づけている。また、やくし苑、改善センターが第一避難所となっており、避難資材もすぐに準備できる。学校施設にはまだ避難資材が準備されていないので、統廃合と合わせて学校施設の避難所機能については、検討していく。

阿部利広委員

各学校の写真や図面があると具体的な議論ができるのではないか。

庄司紀一政策財政監

準備できしだい、委員の皆さんに配付する。次回開催日程については、1ヵ月前にはご連絡させていただく。